

令和5年度 第1回ヤングケアラー支援に向けた庁内連携会議

日時：令和5年5月30日(火) 午前10時から
会場：郡山市こども総合支援センター
(ニコニコこども館) 3階 研修室

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議
 - (1) 福島県ヤングケアラー実態調査の結果について (資料1)
 - (2) ヤングケアラー支援のための本市の取り組みについて (資料2)
 - (3) ヤングケアラーの発見から支援につなぐ流れについて (資料3)
 - (4) その他
- 4 その他

出席所属

部	課			
保健福祉部	保健福祉総務課	生活支援課	障がい福祉課	健康長寿課
	地域包括ケア推進課	介護保険課	保健所 保健・感染症課	保健所 健康づくり課
学校教育部	学校管理課	学校教育推進課	総合教育支援センター	
こども部	こども政策課	こども家庭未来課	保育課	こども家庭支援課

(1) 福島県ヤングケアラー実態調査の結果について

○調査の概要

◆調査目的

県内の小学生、中学生、高校生の約12万人を対象に、家族のお世話の状況などの生活実態について調査し、ヤングケアラーと思われる子どもの早期発見や、支援につなげる仕組みづくりの検討を行う基礎資料とする。

◆調査対象

県内の小学校5～6年生、中学生、高校生の合計約12万人

①小学校 (5～6年生)	397校	28,972人
②中学校 (全学年)	220校	45,543人
③高校 (定時・通信含む)	97校	44,563人
計	714校	119,078人



◆回答者数

学校種別	福島県全体	郡山市
小学校	24,858人	4,987人
中学校	39,258人	7,086人
高校 (全日制)	37,666人	8,640人
高校 (定時制・通信制)	607人	379人
合計	102,389人	21,092人

※郡山市の人数 21,092人は、「郡山市に所在地がある学校」の回答者数であるため、郡山市外の居住者も含まれます。

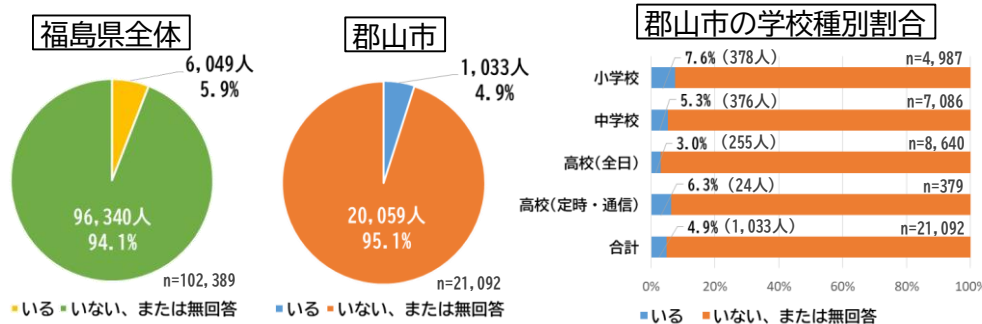
◆調査時期

令和4年9月～令和4年11月

○調査結果 (県と本市の比較)

※福島県全体の結果については、「福島県子どもの生活実態に関するアンケート調査報告書」を一部抜粋・編集して掲載しています。

◆お世話をしている家族の有無

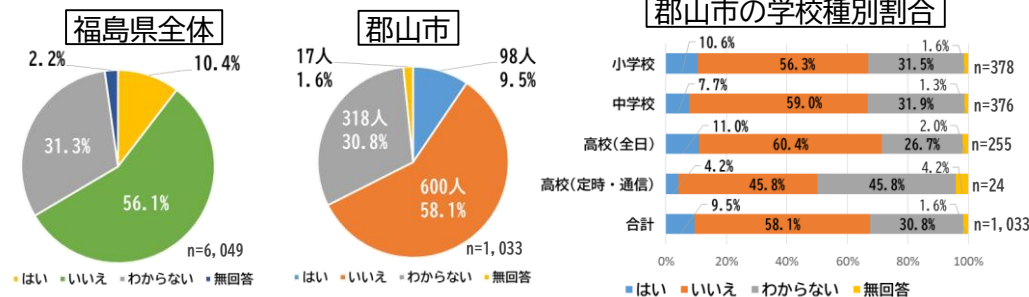


- お世話をしている家族が「いる」と答えた割合は、県全体の5.9%に対し、郡山市は4.9%と、若干低い割合となっている。
- 郡山市で「いる」と答えた学校種別は小学校が7.6%と最も高く、以下中学校5.3%、高校(全日)3.0%と、年齢が低いほど割合は高い傾向にある。

※以降は、すべてこの設問で「いる」と答えた人を対象として集計・比較しています。
 ※郡山市の1,033人は、「いる」と答えた人のうち、郡山市内に居住している人の数です。

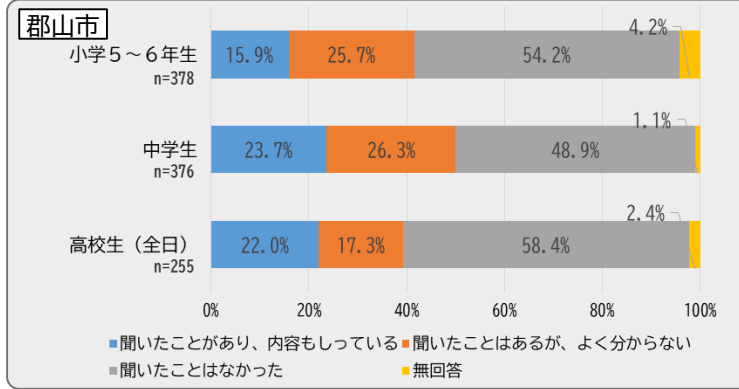
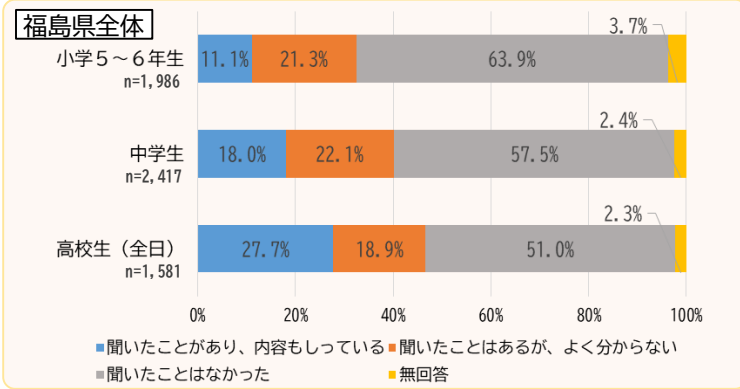
①ヤングケアラーの自覚

○お世話をしている家族が「いる」と答えた人に対して、「自分はヤングケアラーだと思うか」という質問をした結果



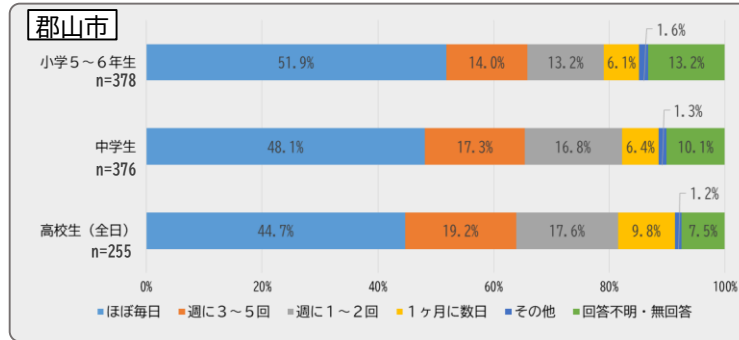
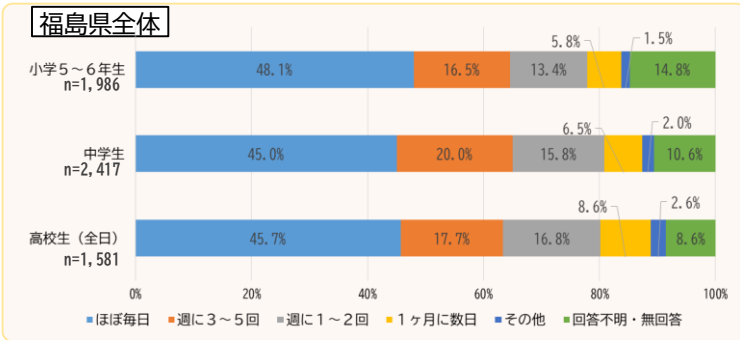
- 「自分はヤングケアラーだと思う」と答えた割合は、県全体の10.4%に対し、郡山市は9.5%と、若干低い割合となっている。
- 郡山市で「自分はヤングケアラーだと思う」と答えた割合は、高校(全日)が11.0%と最も高く、以下小学校10.6%、中学校7.7%などとなっている。

② ヤングケアラーの認知度（お世話をしている家族が「いる」と回答した人の認知度）



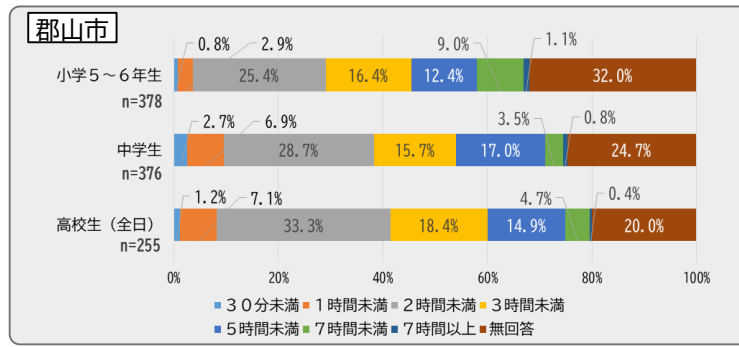
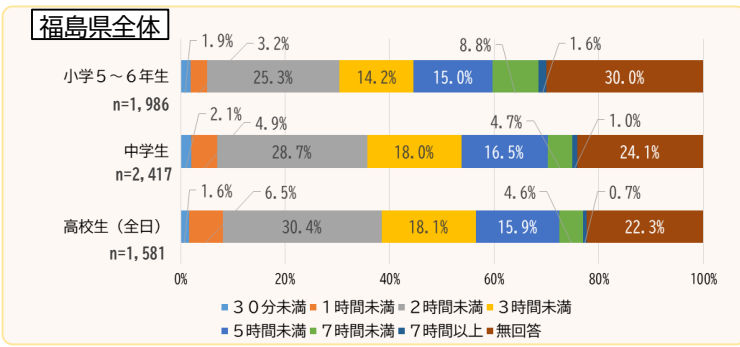
- 県全体の認知度は、年齢が上がるにしたがって高くなってきている。
- 郡山市の認知度は、小中学生において県全体より10ポイント程度高く、逆に高校生の認知度は県よりも低い結果となっている。
- 郡山市においては、アンケート実施前に、市内の小学4年生から中学3年生までに、周知啓発用リーフレットを配布したため、小中学生の認知度が向上していると思われる。

③ お世話をしている頻度



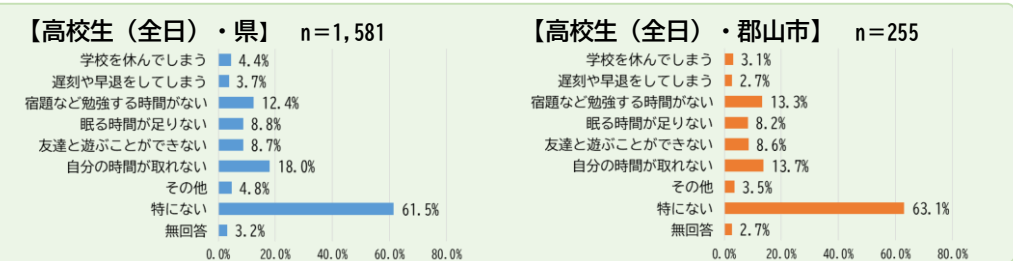
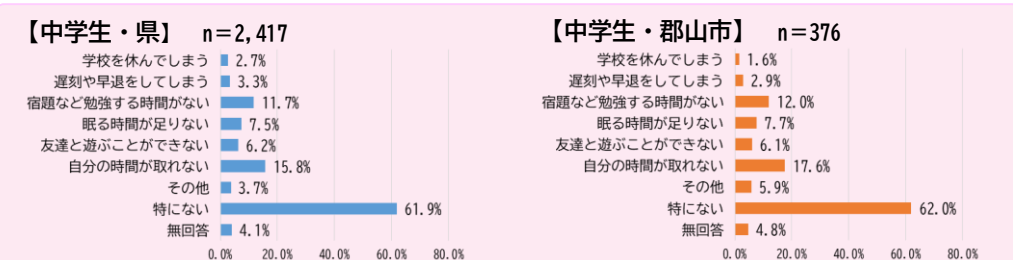
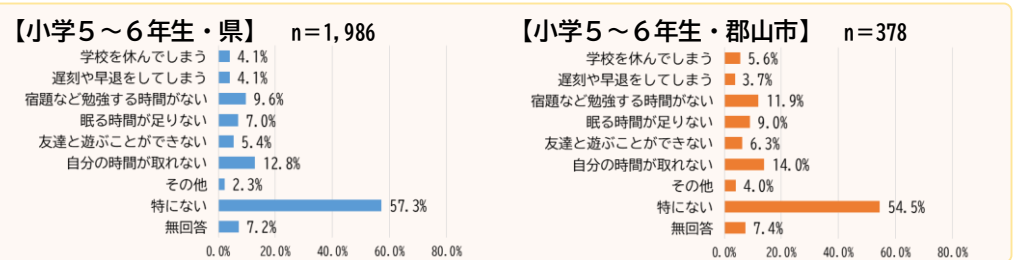
- 県全体・郡山市ともに、「ほぼ毎日」と答えた割合が最も高くなってきている。
- 県全体と郡山市との比較では、小中学生において、「ほぼ毎日」と答えた割合が若干高くなってきている。

④ 平日1日あたりにお世話を費やす時間



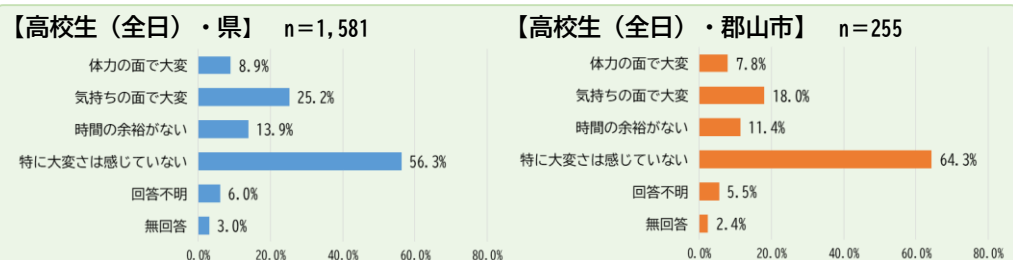
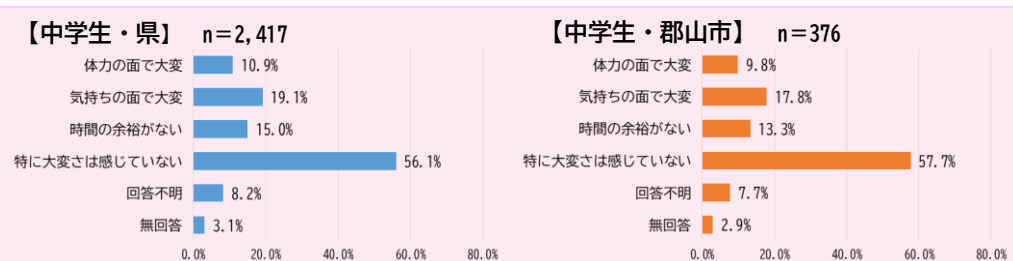
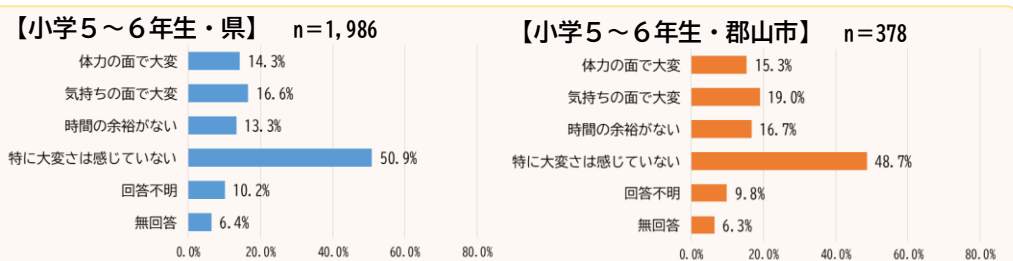
- 県全体・郡山市ともに、「2時間未満」と答えた割合が最も高くなってきている。また、「7時間未満」と答えた割合は、小学生で最も高い割合となっている。
- 県と郡山市の傾向は概ね変わらないが、3時間を超える長時間のお世話をしている割合は、郡山市のほうが若干低い割合となっている。

⑤お世話をしていることで経験したこと（困っていること）（複数回答）



- ・ 県全体・郡山市ともに、どの学校種別も「特にない」が最も多く、50%を超えている。
- ・ 実際に経験していることとしては、県全体・郡山市ともに、「自分の時間が取れない」「宿題など勉強をする時間がない」の割合が高くなっている。
- ・ 県全体と郡山市を比較すると、特に小学生において、お世話をしていることで何らかの困りごとを抱えている割合が高かった。

⑥お世話をするごとの大変さ（複数回答）



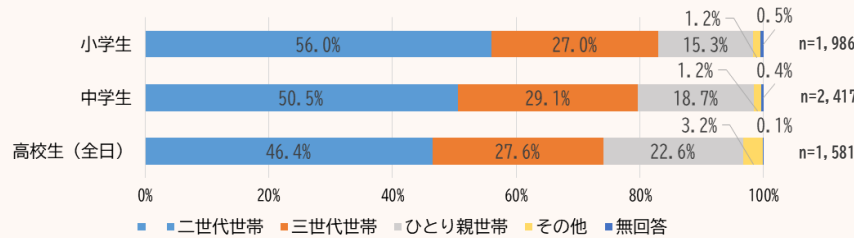
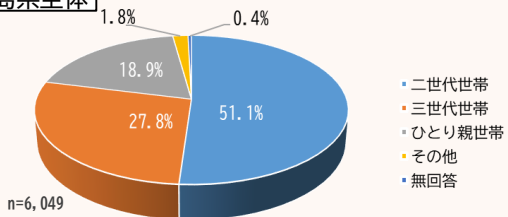
- ・ 県全体・郡山市ともに、どの学校種別も「特に大変さは感じていない」が最も多く、おおむね50%を超えている。
- ・ 県全体・郡山市ともに、年齢が上がるごとに「体力」よりも「気持ち」の面での負担が大きくなる傾向がみられる。
- ・ 県全体と郡山市を比較すると、小学生において「大変さ」を感じている割合が高く、反対に高校生においては「大変さ」を感じている割合が低くなっている。

ヤングケアラー支援に向けた庁内連携会議

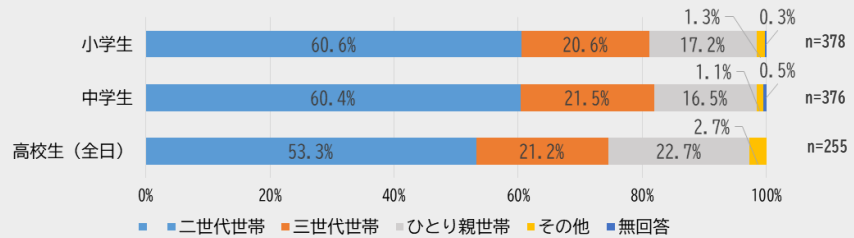
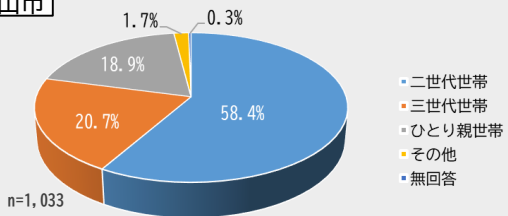
資料 1 - 4

⑦お世話をしている家族がいると答えた人の世帯区分（家族構成）

福島県全体



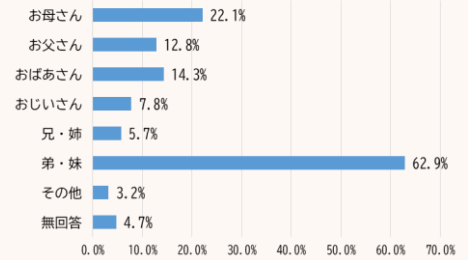
郡山市



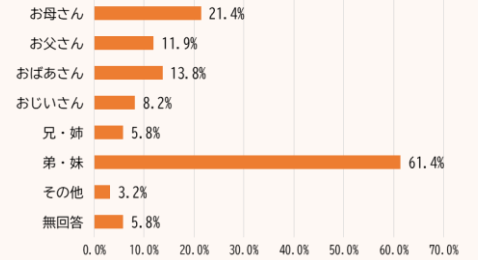
- 「お世話をしている家族がいる」と答えた人の家族構成を、県全体と郡山市で比較すると、郡山市のほうが「二世帯世帯」の割合が高い。
- 県全体・郡山市ともに、ひとり親世帯の割合は18.9%であった。
- 郡山市のみを見ると、小学生と中学生の家族構成の割合はほぼ同じだが、高校生については二世帯世帯の割合が減少し、ひとり親世帯の割合が増加している。

⑧お世話をしている家族（複数回答）

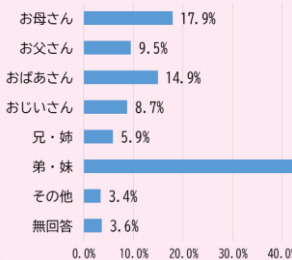
【小学5～6年生・県】 n=1,986



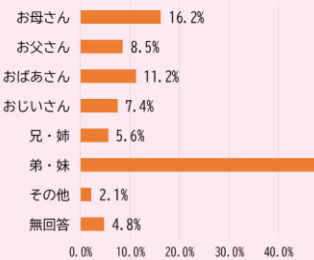
【小学5～6年生・郡山市】 n=378



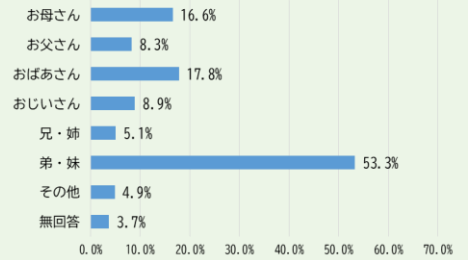
【中学生・県】 n=2,417



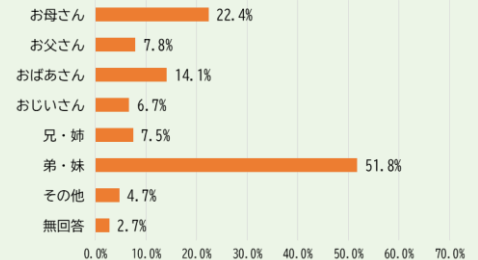
【中学生・郡山市】 n=376



【高校生(全日)・県】 n=1,581

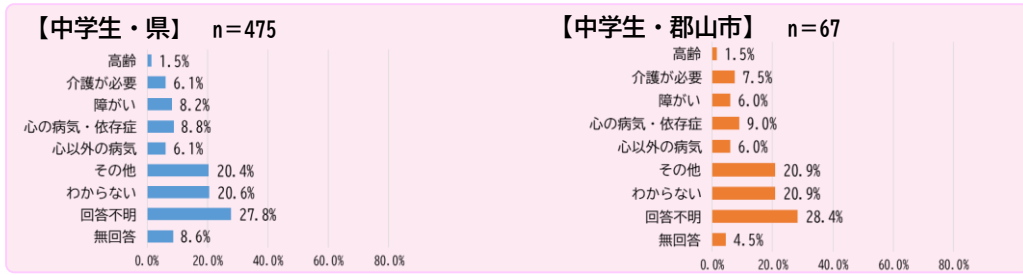
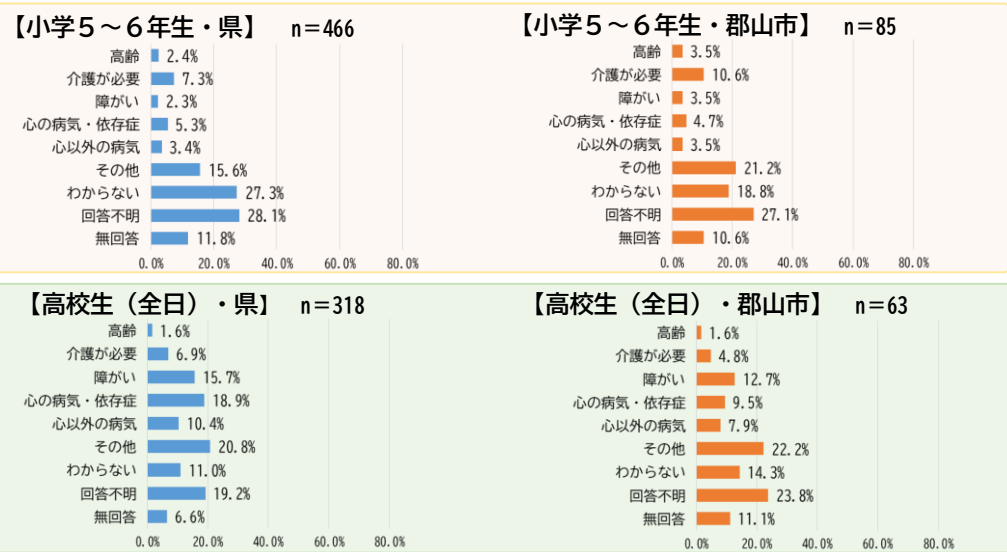


【高校生(全日)・郡山市】 n=255



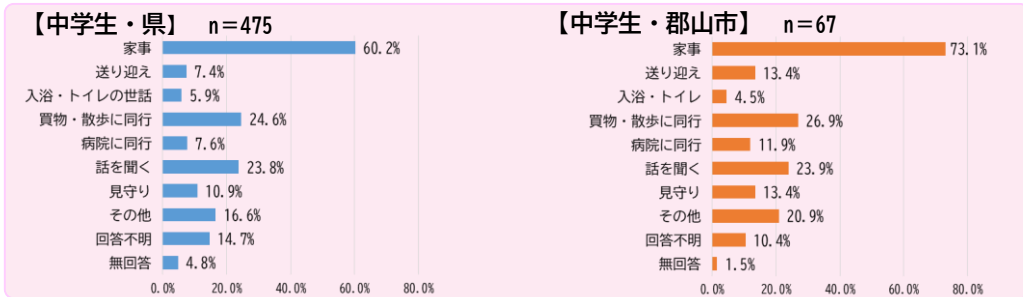
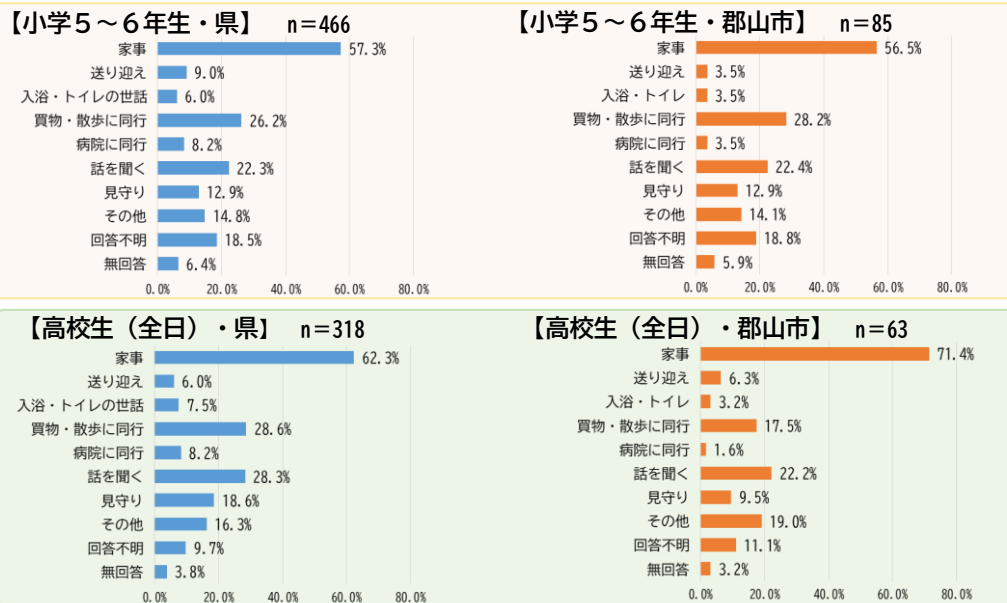
- 県全体・郡山市ともに、どの学校種別も「弟・妹」が最も多くなっており、特に小中学生においては60%を超えている。
- 「弟・妹」以外の家族については、県全体・郡山市ともに「おばあさん」「おじいさん」の割合が比較的高い割合となっている。
- 「誰のお世話をしているか」という観点からは、県全体と郡山市の傾向は同様であり、目立った違いは見られなかった。

⑨母または父をお世話している理由（複数回答）



- ・ 県全体・郡山市ともに、小中学生において「わからない」と回答した人の割合が比較的高く、年齢が低いほど理由がわからないままケアをしている子どもが多い傾向にある。
- ・ 年齢が上がるにしたがって、「障がい」「こころの病気・依存症」など、負担が大きいと想定されるケアを担っている。

⑩母または父のお世話の内容（複数回答）

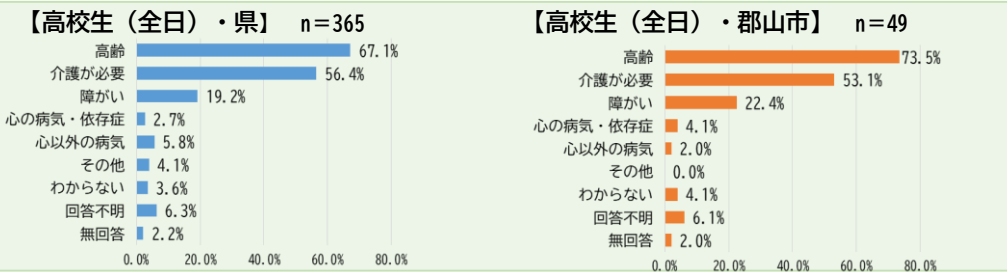
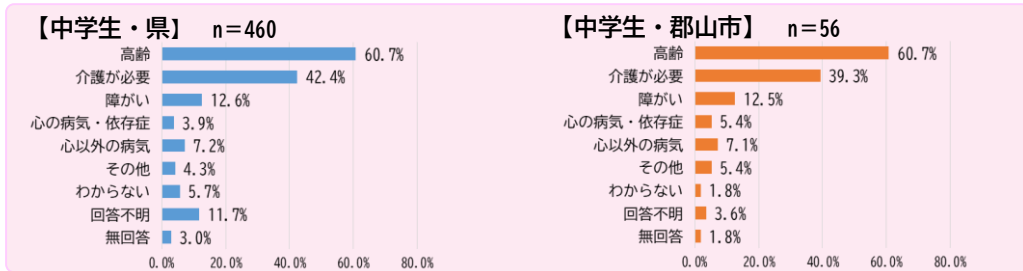
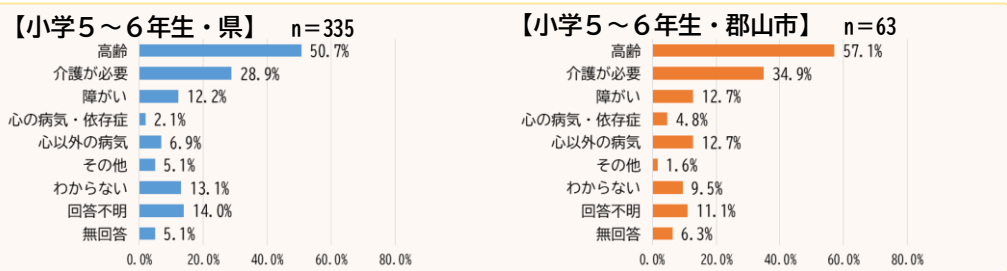


- ・ 県全体・郡山市ともに、家事（掃除・食事・洗濯等）と回答した人の割合が最も高くなっている。
- ・ 県全体との比較では、郡山市の中学生において、「家事」と答えた割合が高くなっている。また、郡山市の高校生（全日制）において、「話を聞く」「見守り」と答えた割合が低くなっている。

ヤングケアラー支援に向けた庁内連携会議

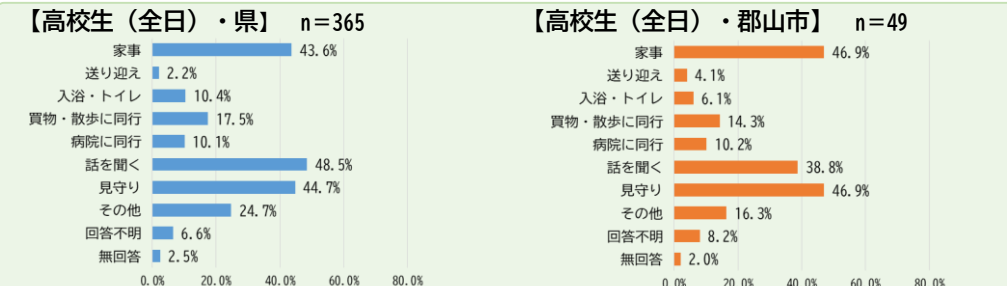
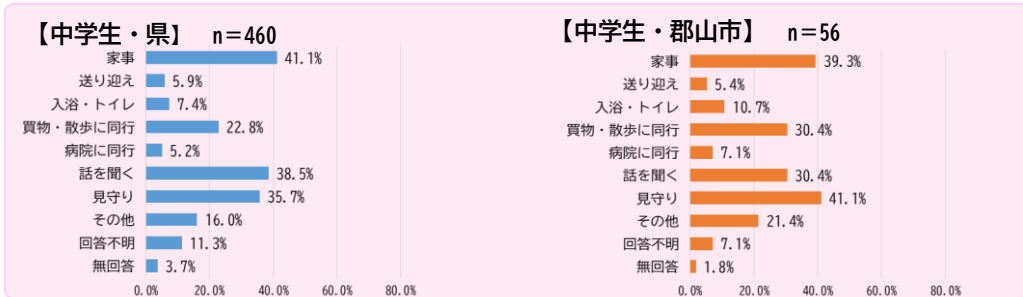
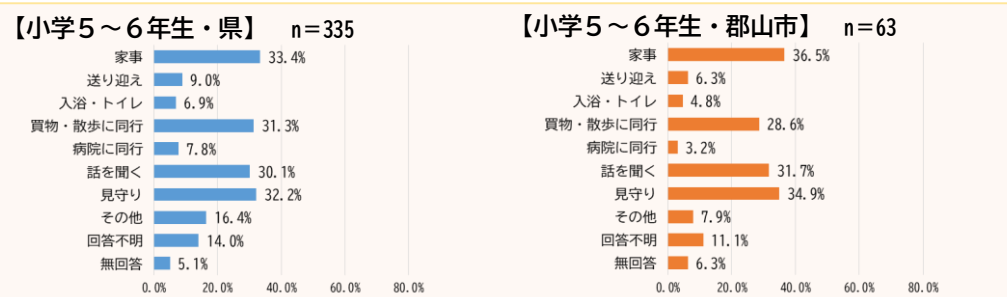
資料 1 - 6

①祖母または祖父をお世話している理由（複数回答）



- ・ 県全体・郡山市ともに、「高齢」「介護が必要」という回答が最も高くなっている。
- ・ 郡山市の小中学校で「わからない」と回答した人の割合は、県全体よりも低くなっている。

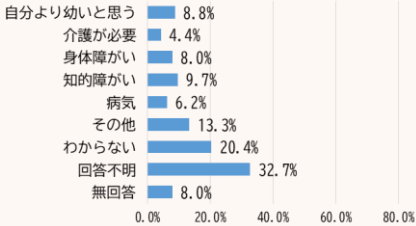
②祖母または祖父のお世話の内容（複数回答）



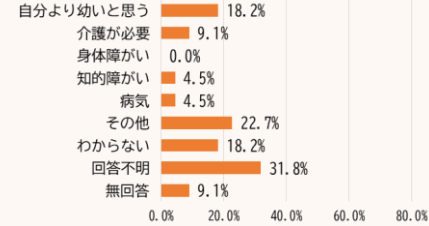
- ・ 県全体・郡山市ともに、「家事」の割合は両親に対して行っている場合に比べて低くなっており、代わりに「話を聞く」「見守り」と回答した割合が高くなっている。
- ・ 福島県では、「入浴・トイレ」の介助をしている割合が年齢とともに上がっていくが、郡山市では高校生より中学生の割合が高くなっている。

⑬ 兄または姉をお世話している理由（複数回答）

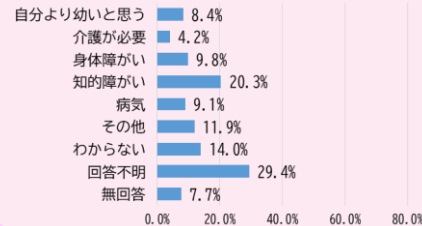
【小学5～6年生・県】 n=113



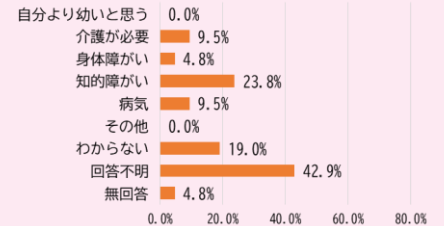
【小学5～6年生・郡山市】 n=22



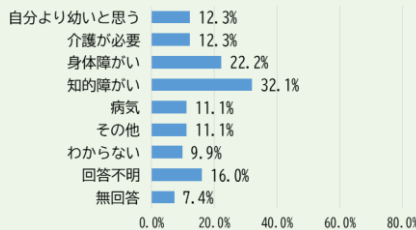
【中学生・県】 n=143



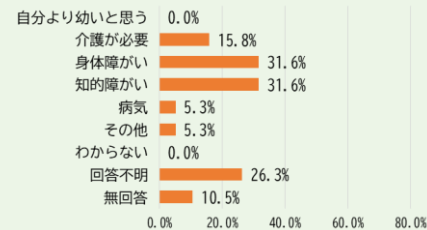
【中学生・郡山市】 n=21



【高校生（全日）・県】 n=81



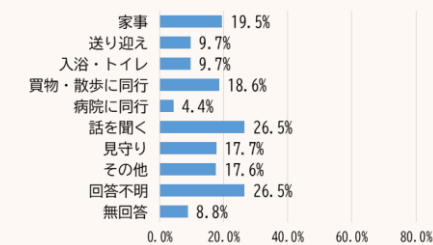
【高校生（全日）・郡山市】 n=19



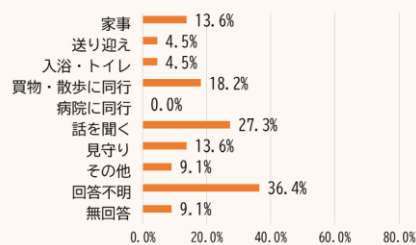
- 県全体・郡山市とも、中学生と高校生において「身体障がい」「知的障がい」と答えた割合が高くなっている。
- また、県全体・郡山市とも、小中学生において、「わからない」と答えている割合が比較的高かった。

⑭ 兄または姉のお世話の内容（複数回答）

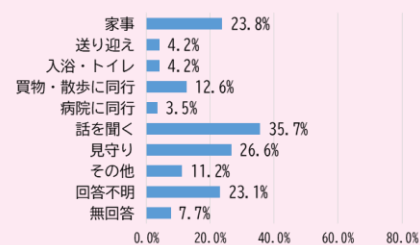
【小学5～6年生・県】 n=113



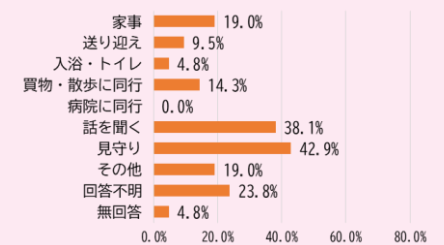
【小学5～6年生・郡山市】 n=22



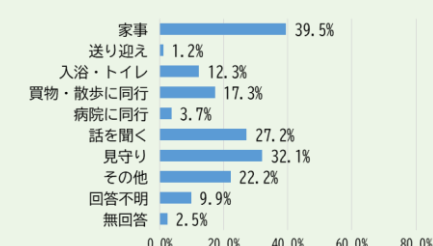
【中学生・県】 n=143



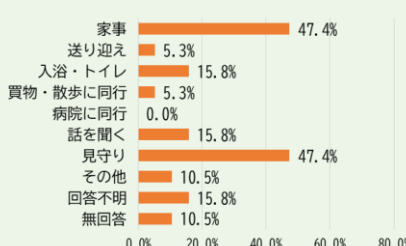
【中学生・郡山市】 n=21



【高校生（全日）・県】 n=81

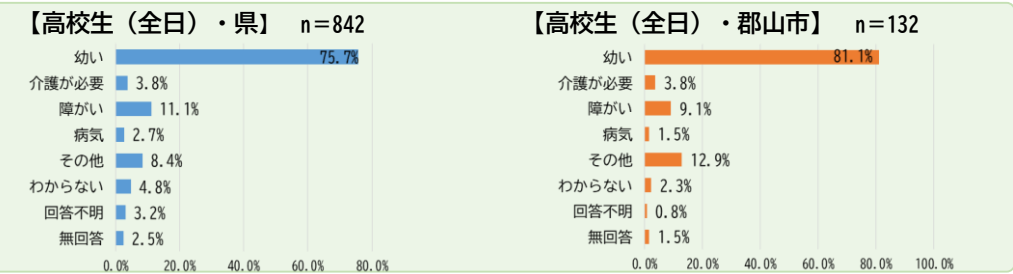
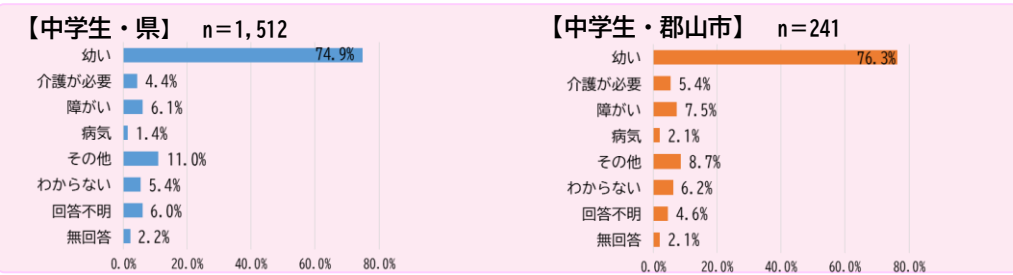
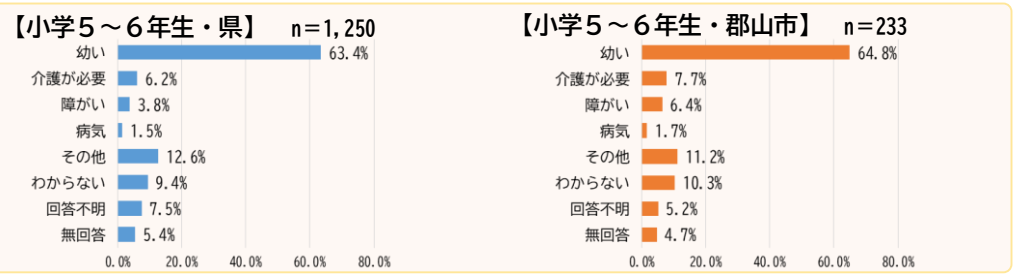


【高校生（全日）・郡山市】 n=19



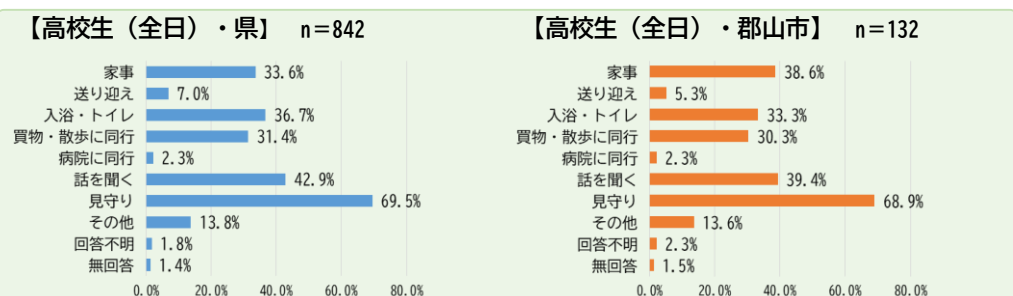
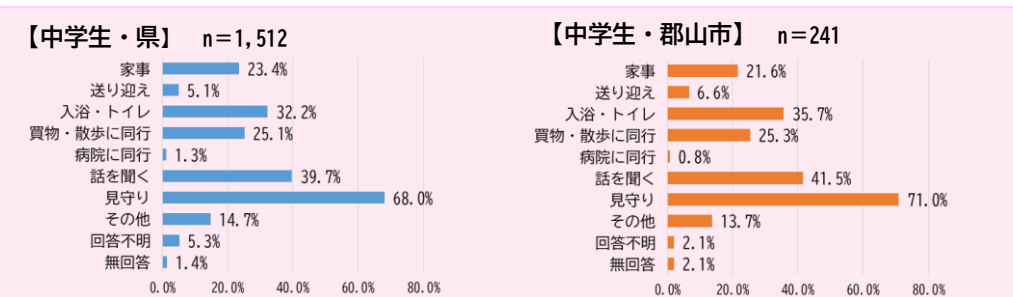
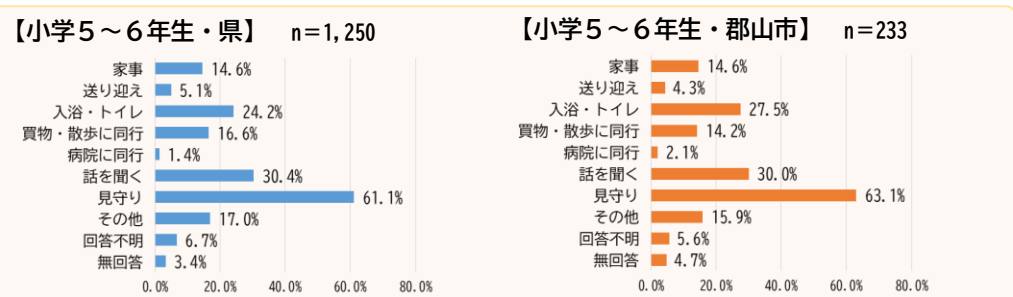
- 県全体・郡山市とも、小学生においては明確な傾向が見えにくいですが、中学生と高校生においては、「家事」「話を聞く」「見守り」の割合が高くなっている。
- 郡山市の高校生において、「家事」「見守り」と答えた割合が福島県よりもかなり高くなっている。

⑮ 弟または妹をお世話している理由（複数回答）



- ・ 県全体・郡山市ともに「幼い」が大きな割合を占めており、年齢が高くなるに連れてその割合は高くなっている。
- ・ 県全体と郡山市の傾向はおおむね同様となっている。

⑯ 弟または妹のお世話の内容（複数回答）



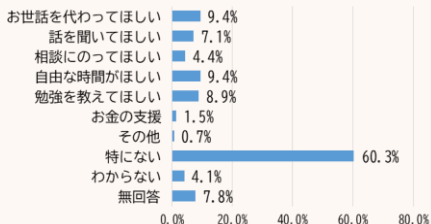
- ・ 県全体・郡山市ともに、「見守り」の割合が最も高く、「話を聞く」「家事」「入浴・トイレ」「買い物・散歩に同行」などの割合が高くなっている。
- ・ 県全体・郡山市ともに、「家事」の割合は、年齢が高くなるにつれて高くなっている。
- ・ 県全体と郡山市の傾向はおおむね同様となっている。

ヤングケアラー支援に向けた庁内連携会議

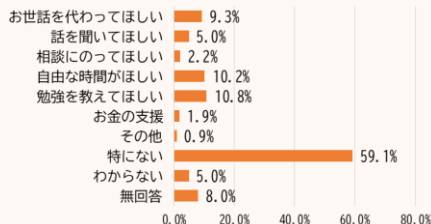
資料 1 - 9

⑰学校や周りの大人にしてもらいたいこと（複数回答）

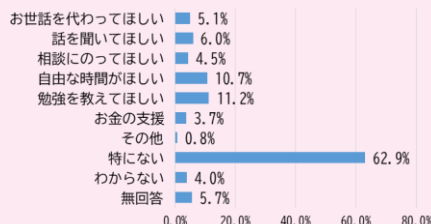
【小学5～6年生・県】 n=1,694



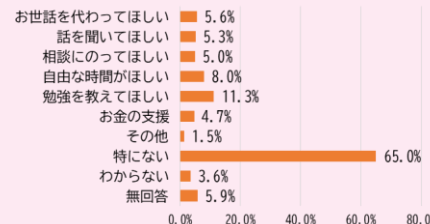
【小学5～6年生・郡山市】 n=323



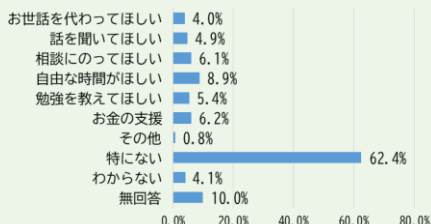
【中学生・県】 n=2,143



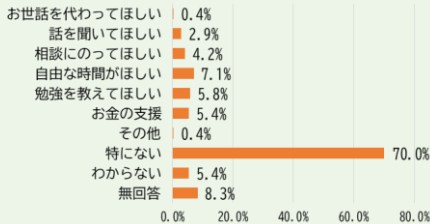
【中学生・郡山市】 n=337



【高校生（全日）・県】 n=1,457



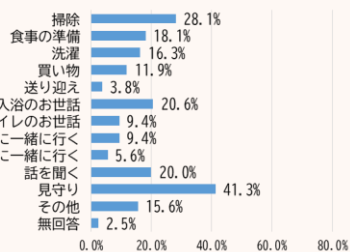
【高校生（全日）・郡山市】 n=240



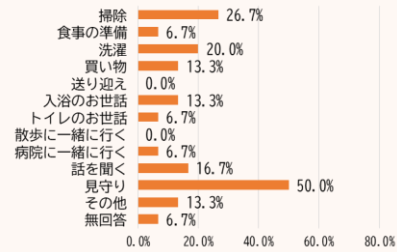
- ・ 県全体・郡山市ともに「特にない」が大きな割合を占めているが、その他では「自由な時間がほしい」「勉強を教えてほしい」という回答がやや高くなっている。
- ・ 県全体と郡山市の傾向はおおむね同様となっている。

⑱代わってほしいお世話の内容（複数回答）

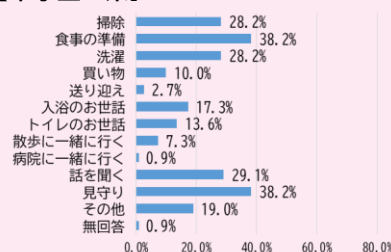
【小学5～6年生・県】 n=160



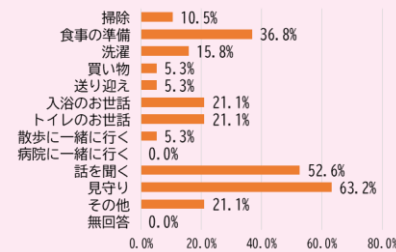
【小学5～6年生・郡山市】 n=30



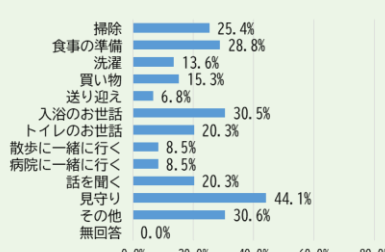
【中学生・県】 n=110



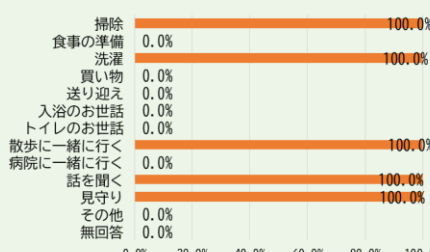
【中学生・郡山市】 n=19



【高校生（全日）・県】 n=59



【高校生（全日）・郡山市】 n=1



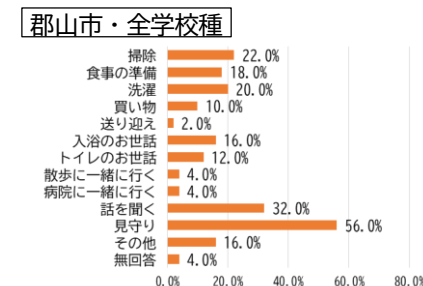
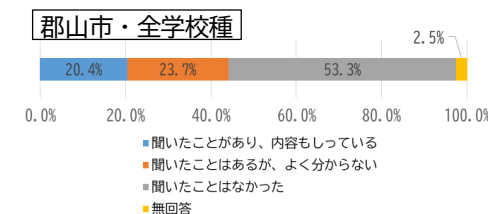
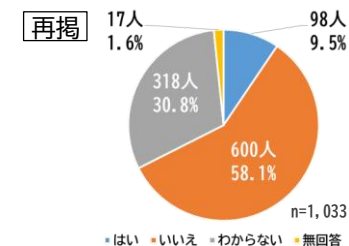
- ・ 県全体・郡山市ともに、どの学校種においても「見守り」が最も高くなっている。
- ・ 学校種によって傾向は異なるが、「掃除」「食事の準備」「入浴・トイレのお世話」などが、他に比べて高い割合となっている。
- ・ 郡山市において「代わってほしいこと」がある人は、小学生で30人、中学生で19人、高校生で1人と、人数が少ないため傾向はつかみづらい。

○調査結果に基づく今後の支援方針

- 本市にも、自分はヤングケアラーだと自覚している子どもは一定数存在するが、現時点で具体的な相談に至った事例はない。

- 子ども自身の「ヤングケアラー」の認知度は県全体より高いものの、お世話をしている家族がいる子どものうち、約半数は「聞いたことがない」と答えており、認知度は高くない。

- 実際に家族のお世話をしている子どもからは、「話を聞く」「見守り」のほか、「掃除や食事の準備」といった「家事」、「入浴やお風呂の世話」といった「介助」を代わってほしいという声が多く聞かれている。



今後取り組むべき支援策

- 子どもたちにとって相談しやすい環境を整備する。
- ヤングケアラーの認知度向上の取り組みを継続する。
- ヤングケアラーが行っている家事等を代行するサービスを創出する。
- ヤングケアラーがケアしている家族に適切な福祉サービスを提供する。

(2) ヤングケアラー支援のための本市の取り組みについて

①周知啓発用リーフレットの作製・配布

- 内 容：子ども用と大人用の2種類のリーフレットを作製・配布
- 対 象 者：【子ども用】小学4年生～中学3年生
【大人用】学校、民生児童委員、医療機関等
- 配布時期：令和4年6月～7月
- 配 布 数：各23,000部

※今年度も子ども用・大人用それぞれに作製し、配布予定



子ども用



大人用

②ヤングケアラー研修会の開催

- 日 時：令和4年8月31日
- テ ー マ：「ヤングケアラーの現状と各機関に求められる支援について」
- 講 師：立正大学教授／日本ケアラー連盟理事 森田 久美子 氏
- 参 加 者：会場86名、Web視聴183名 合計269名

※今年度も8月開催に向けて講師調整中



③LINEを利用したヤングケアラー相談

- 内 容 : 既存の「LINE子ども・子育て相談アプリ」にヤングケアラー専用のページを追加
- 対 象 者 : ヤングケアラー本人・関係者
- 運用開始日 : 令和5年4月1日

アカウント名 : 郡山市LINE子育て相談
ID : @939yzvid



④ヤングケアラーがいる世帯へのヘルパー派遣

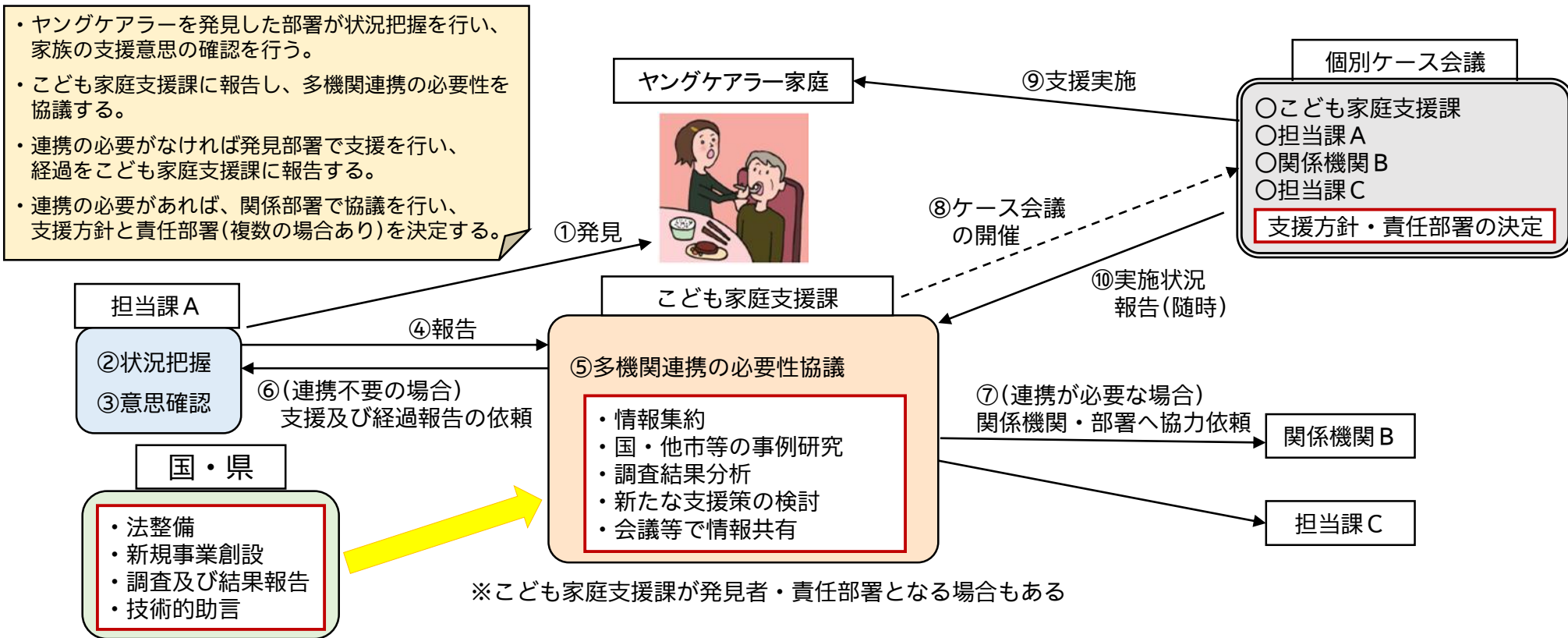
- 事 業 名 : 子育て世帯訪問支援事業
- 内 容 : ヤングケアラーがいる家庭や、子育てに不安や悩みを抱える家庭などにヘルパーを派遣し、家事や育児を代行する。
- 利 用 料 : 無 料
- 受 託 者 : 郡山市社会福祉協議会
- 事業開始日 : 令和5年5月24日



(3) ヤングケアラーの発見から支援につなぐ流れについて

- ・令和4年度第1回会議において、こども家庭相談センター（当時）の役割と、支援フローについて各課から意見をいただいたこと、さらに児童福祉法の改正・こども家庭庁の創設などに伴い、組織改編を行ったことなどから、改めて発見から支援につなぐまでの流れについて確認する。

ヤングケアラー支援フロー（庁内の関係課が発見者となった場合）



※ヤングケアラー本人や、民生委員・町内会等の市民からの相談は、こども家庭支援課が初期対応を行う。
 ※関係課が通常の業務の中で関わる人（大人）を支援していく中で、その大人をケアする子どもを発見した場合は、普段から関わっていて、その家庭をよく知る関係課が初期対応したほうが、スムーズな支援につながると思われる。